

3.3 上下流面の補修工事

上下流面および監査廊のダム軸よりひび割れで実施した A、B 工法による補修工事の実績を図 3.1 に、工事状況を写真 3.1～5 に示す。

【注入工】

初期注入として、注入圧が一定(1.4kg/cm^2)を保つまで注入し、60 分放置後、圧力タンク内の注入材が減少して注入が確認されたものについては、注入圧が 1.4kg/cm^2 になるまで再注入を行った。注入時間は、注入材(E-206SS)の可使用時間である 130 分とした。注入量は、60 分放置後の再注入における追加量を注入量として管理した。また、注入によるひび割れの開きをダイヤルゲージにより管理した。注入実績を図 3.2～4 に示す。

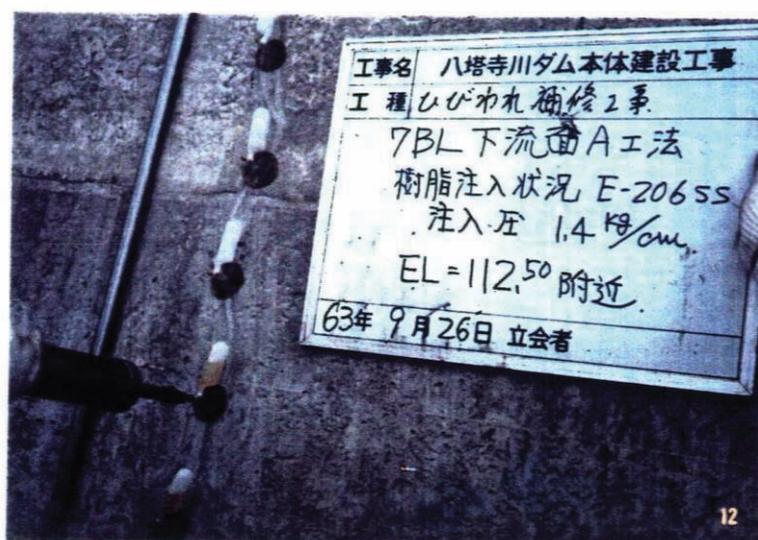


写真 3.1 A 工法 注入状況

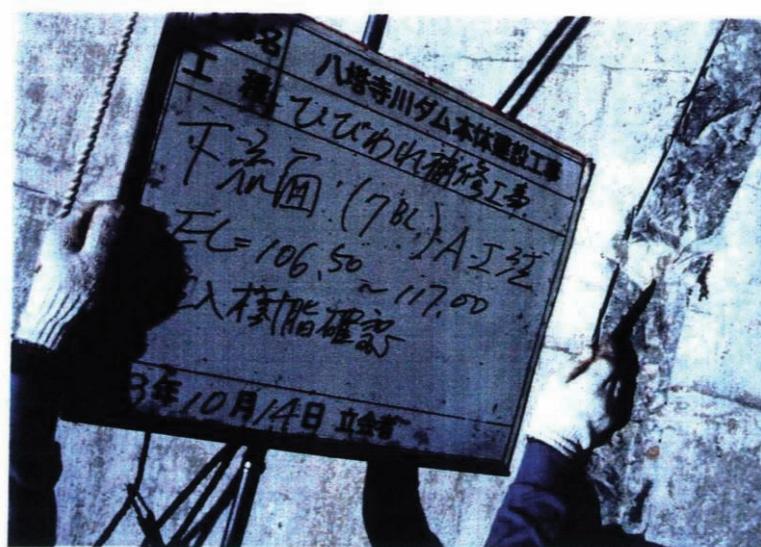


写真 3.2 A 工法 Vカット状況

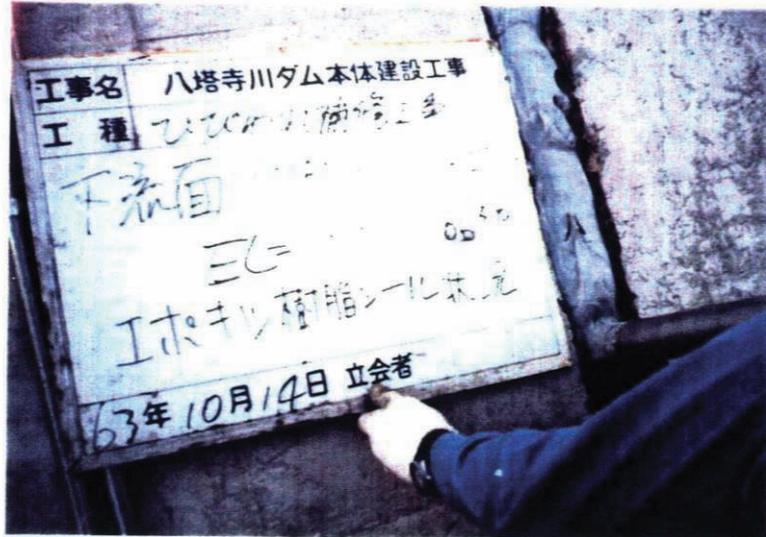


写真 3.3 A工法 シーリング状況



写真 3.4 B工法 Vカット状況



写真 3.5 B工法 シーリング状況

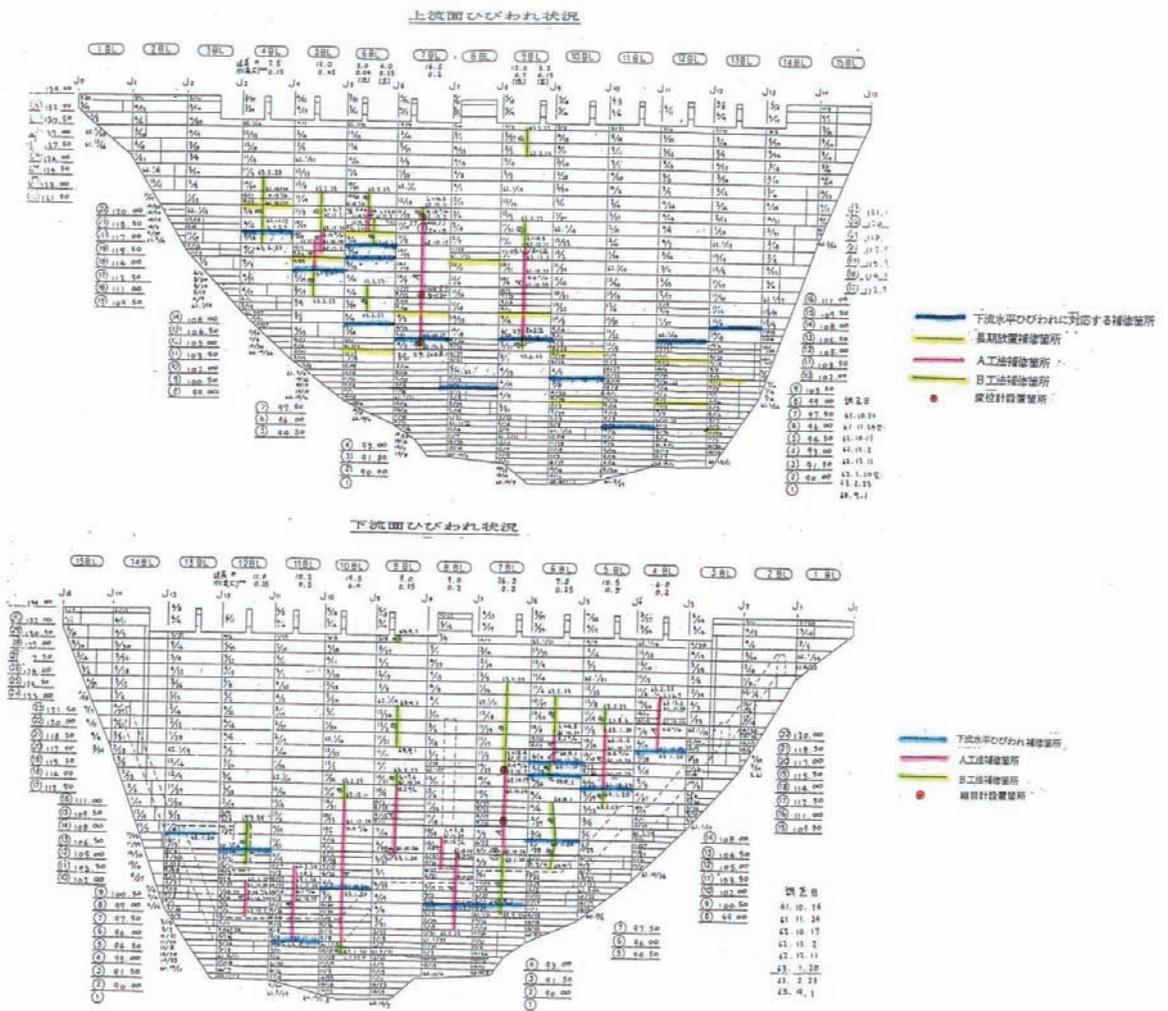


図 3.1 堤体上下流面補修工事実績